



★グループホームで暮らす

家庭を離れて自立生活を始める事情は、人それぞれですが、制度上は18歳の成人年齢を過ぎれば、誰でもグループホームでの生活を始められます。ある大学教授が講演の中で、「自立生活に移行する時期を例えば25歳くらいという風に早い段階で決めておき、その時に向けて準備を進めていくのが良い。」という私見を述べておられました。遅かれ早かれ誰にでもやってくる家庭からの巣立ち、その生活の実情について今回取り上げてみたいと思います。

〈現状〉

まず、障害のある人の居住系サービスの選択肢ですが、大きくは2種類に分けられます。一つは、施設入所でもう一つはグループホームです。施設入所は、児童の時期から可能ですが、グループホームは成人年齢(18歳)を過ぎてからの利用が基本です。

施設入所のニーズは、重度の障害の方を中心に今だ根強いものがありますが、地域移行を進める総合支援法の理念のもと、入所者の人数はここ20年で僅かに下降線を描いています。もう一方のグループホームは、全国の入居者総数で見ると2007年に3.8万人だったのが、2016年には、13.3万人と10年足らずで3.5倍増の急激な増加を見せました。今現在では、グループホームで暮らす人(18歳以上)の方が入所施設で暮らす人(児童を含む)を1万人以上も上回っている状況です。

秦野市内には、29のグループホーム運営法人が存在し、入居枠は420人分にもなります。対人口比では、密度の濃いエリアと言えます。グループホームと言えば、かつては、自立度の高い人が入る所というイメージが強かったように思いますが、今は障害の重い方へのグループホームも増えつつあり、行動障害の方が多く利用するホームや医療的ケアを要する重度心身障害の方が利用するホームもあります。

それでもまだ、需要に対する供給は十分とは言えず、今後も増やしていく方向で、国、県、市町村が事業者へ働きかけています。

入所施設とグループホームの違いで際立っているのは、運営に当たる法人です。入所施設に関しては、ほとんどが社会福祉法人ですが、グループホームは会社組織が運営主体となっている所が、ここ最近特に増えています。営利法人がグループホームの運営に当たることによって不安を感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、すべて公の基準を満たし、県の指定を受けて開設されているため、心配無用と言えそうです。むしろ、企業として利用者ニーズをしっかりとくみ取り、利用者本位のサービス提供が強みになっているケースもあります。

〈暮らしの実際〉

グループホームは、タイプによって大きく2種類に分けられます。一つは、1戸建てタイプで、玄関、トイレ、浴室は共用で居室は個室です。このタイプは、家族がそれぞれのプライバシーを守りながら共同生活を営むイメージです。もう一つは、アパートタイプです。玄関、トイレ、浴室、居室がすべて居住者専用で、食堂だけが共有スペースとして確保されています。このタイプは、通常のアパートを借り上げ、一世帯分を食堂兼共用スペースとして活用している作りが多いです。アパートで一人暮らしをする人が、近くの部屋で食事提供だけ受けるイメージです。

どちらのタイプも食事は、提供時間(※例として朝食6時～9時、夕食17時～20時等)が決まっています。その時間帯は自由に出入りでき、全員で一緒に食事をするというような縛りはありません。昼食については、日中は通所(通勤)することが前提になっているため、提供されないのが基本です。休日で日中もホームで過ごす人は、自炊、外食、弁当購入等の対応をしています。ただし、ホームによっては日中もニーズに応じた食事提供体制をとっている所もあります。

ホームには、世話人や支援員がいて、食事提供以外にも様々な支援や相談態勢を提供しています。

<グループホーム訪問>

秦野市内にある「ファミリーホーム秦野」というグループホームを取材しました。場所は、国道246沿いの保健福祉事務所秦野センターの近くです。アパートタイプのグループホームの典型例で、このホームの詳細が分かるとグループホームのイメージをより具体的に持つことができると思います。

・物件⇒ある企業が社員寮として使っていた建物の2F～4F部分を一括借り上げし、3Fと4Fをグループホームとして転用したものです。居室は、すべてワンルームマンションタイプで、部屋数19室、食堂兼共用ルームが1室です。

・費用⇒敷金(入居時10万円 ※敷金があるのは、グループホームとしては珍しいです)

家賃	41,000円	(実質的な自己負担額は、21,000円)
※国と市からの家賃補助が1万円ずつ、計2万円支給されます		
	1,000円	(共用部分光熱水費)
	3,000円	(居室水道料金 ※どの居室も一律の料金)
	?円	(居室光熱費 ※個人の使用量による)
	300円	(朝食1食あたり)
	500円	(夕食1食あたり)

グループホームへの支払い総額は、30日分の食費込みでおおよそ55,000円前後と想定されますが、通所先での昼食代や消耗品購入費用等、他にも生活費はかかります。障害基礎年金や給与・工賃の収入で生活費が不足する方については、生活保護費を受給しながら生活されているそうです。

入居時は、必要な家財道具を揃える必要があり、その部分の自己負担も生じます。近所のリサイクルショップで買い物同行の支援を受けながら、揃える人もいます。

・入居者⇒手帳別内訳としては、精神障害の方が15名と最も多く、知的障害の方が4名です。(※精神障害の方には、アパートタイプのグループホームが人気です) 年齢的には25歳から64歳まで各年齢層の方が偏りなくいらっしゃるそうです。日中は、精神科病院のデイケア、生活介護、就労継続支援B型、企業等に通われています。生活介護の利用者の場合は、事業所の送迎車がホームまで送迎に来てくれます。みなさん障害支援区分も取られていて、ほとんどの方が区分2～3で、最も高い方でも4ということでした。ワンルームマンションタイプのホームで生活されている方たちですから、自立度の高い方が大半です。

・支援⇒19名の利用者に対して、世話人、支援員は総勢10名いて、一日平均5名体制で支援しています。夜間も宿直の職員がいて何かあれば対応しています。食事提供以外の具体的な支援内容としては、服薬管理、金銭管理、居室清掃の支援、買い物支援、通院同行等を行っています。それぞれの居室には、職員の携帯電話番号が貼ってあり、何か困ったことがあれば、まずは電話で相談しているそうです。

門限等はなく、かなり自由な生活スタイルで皆さん過ごされているようです。実家等への外泊も、事前連絡(食事の関係で)すれば問題なしで、逆にご家族が泊りに来ることも可能ですが、友人や交際相手は泊められないそうです。グループホームには利用者の安全確認義務があり、一日に一度は職員から利用者にはコンタクトを取っています。

・生活スタイル⇒企業にお勤めの男性入居者のお一人から、留守中の居室を見せてくださるというオファーをいただき、実際に見学させていただきました。3階の眺めの良い部屋で、お気に入りの家財道具に囲まれて、一人暮らしを満喫されている様子が伝わってきました。右のQRコードを読み込むと、取材で撮らせていただいた1分30秒の動画をYouTubeで視聴できます。興味のある方は是非ご覧ください。※動画公開には、施設の了解を得ています。

